

2016 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	統括：大学自己点検・評価委員会	担当：全学教務委員会、全学 FD 委員会
評価基準 4	教育内容・方法・成果	
中項目 4-4	成果 【自己評価：C】	
点検・評価項目(1)	4-4-1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用【全学教務委員会】【全学 FD 委員会】	
点検・評価項目(2)	4-4-2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。	
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性【全学教務委員会】	

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-4-1	<p>学生の学習成果を測定する指標としては、4-3 で述べた「学生による授業評価アンケート」と「卒業生アンケート」が有効である。</p> <p>授業評価アンケートには、「Ⅲ.総合的な設問」として、「Q17.この授業をとおして、自分にとって新しい考え方や発想が身につきましたか。」「Q18.この授業で扱われた分野への関心が高まりましたか。」「Q19.この授業をとおして、自分で調べ、考える姿勢が身につきましたか。」「Q20.この授業を総合的にみて、満足できましたか。」の4つがある。2015 年度のアンケート結果では、自己評価で「非常にそう思う」「そう思う」の肯定的評価をしたのは、1～4 年次の全学平均で、Q17.が 57.5%、Q18.が 60.5%、Q19.が 52.8%、Q20.が 61.8%である（B4-4-1、B4-4-29 d2-表 25～表 28）。</p> <p>また、2011 年度より実施している卒業生アンケートでも、「Q2.所属学部・学科についての専門的知識が身に付いたと思いますか?」「Q4.大学 4 年間で自分の目標を達成できましたか?」「Q5.社会を生き抜く力（マナー、自己管理能力、コミュニケーション能力、問題解決力など）が身に付いたと思いますか?」など、学習成果を問う設問がある。2015 年度のアンケートでは、全学平均で、「そう思う（肯定）」「少し思う（弱肯定）」が、Q2.は 87.9%、Q4.は 75.8%、Q5.は 85.0%である（B4-4-2、B4-4-29 d2-表 29～表 31）。</p> <p>授業評価アンケートと卒業生アンケートの結果は、学部・学科にフィードバックし授業改善の資料としている。ただ、授業の到達目標は授業によって異なるものであり、よりきめの細かい学習成果の測定を行うには、「(当該) 授業の目標は達成できたと思うか」といった、個々の授業の到達目標に即した設問の工夫が必要になるだろう。さらに、学部・学科の教育目標に沿った成果が上がっているかを検証するには、学位授与方針に掲げられた各項目がどれほど実現されたかを学生に問う方法も考えられる。</p> <p>このほか、学生支援センターが毎年度始めのガイダンス時に実施している「学生生活調査（アンケート）」（新入生を除く全学生が対象）の集計結果も、学習成果を測るツールとして活かすことができる（B4-4-3）。この調査は学生生活、課外活動、アルバイト、キャリアプランなどについて、学生の現況を把握することを主眼としたアンケートであるが、学習に関する主な設問は、「大学の授業に興味がありますか?」「あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか?」「今あなたが取っている授業の中で満足する度合いはどれくらいありますか?」「大学での授業や研究・勉強は、来来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか?」「授業時間外の日平均学習時間について」といったものである。</p> <p>学習成果を測定する指標としては、このほか、2 年次から 3 年次への進級率、卒業率、就職決定率も有効である（B4-4-29 d2-表 11、表 13、表 14）。また、国家試験・国家資格合格率、語学検定試験の結果等も学習成果を測る参考資料となる。</p> <p>本学は 2016 年度から GPA を導入している。GPA 制度の運用方法は今後の検討課題であるが、これによって学生がより客観的な成績評価を確認できるようになることが期待される（B4-4-25）。</p> <p>研究科については、博士課程前期課程・後期課程それぞれの学位取得者数と取得率が学修成果を測る指標になる（B4-4-29 d2-表 12）。</p>
4-4-2	<p>本学は、学則第 22 条において、卒業要件を、「本大学に 4 年（第 32 条に該当する者【註：休学した者】は通算して 4 年。）以上在学して本章第 2 節以下に定める各学部の卒業要件を満たした者を卒業とし、卒業証書を授与する。」と定めている（A4-4-1 第 22 条）。学位授与については、大学学則および大東文化大学学位規則において、適切に定められている（A4-4-1 第 23 条、A4-4-2）。各学部・学科の卒業要件については、それぞれ学則の各学部の節において適切に定め、各学部の『履修の手引き』に記載して学生に示している（A4-4-1 第 23 条の 6 第 3 項、第 23 条の 9 第 3 項、第 23 条の 12 第 3 項、第 23 条の 15 第 1 項、第 23 条の 18 第 4 項、第 23 条の 21 第 5 項、第 23 条の 24 第 4 項、第 23 条の 27 第 4 項、A4-4-3、A4-4-4、A4-4-5、A4-4-6、A4-4-7、A4-4-8、A4-4-9、A4-4-10）。</p>

	<p>大学院研究科および各課程の修了要件と学位授与については、大学院学則、大東文化大学学位規則で適切に定められている（A4-4-11 第4条 第15条~第17条、A4-4-2）。修了の要件は、「大学院の手引き」に記載し、あらかじめ学生に明示している（A4-4-12）。また、各研究科で学位授与基準、学位審査基準を定め、ガイダンス等で学生に周知を図っている（A4-4-13~A4-4-19）。</p> <p>卒業・修了認定および学位の授与は、各教授会・研究科委員会において審議・議決し、学長に建議され学長が決定を行う。</p> <p>以上のように、学位授与（卒業・修了認定）は、学部・研究科とも、卒業・修了の要件をあらかじめ学生に明示し、学則の定めに基づき、適切に行われている。</p>
--	--

【効果が上がっている事項】

4-4-1	「学生による授業評価アンケート」「卒業生アンケート」「学生生活調査（アンケート）」が定着し、学習状況・生活状況・課外活動などについて学生の現況を把握し、授業改善・教育環境の改善などに役立てることができる（B4-4-21）。
4-4-2	

【改善すべき事項】

4-4-1	「授業評価アンケート」「卒業生アンケート」「学生生活調査（アンケート）」による学生の自己評価だけでなく、学習成果を測定するポートフォリオ、ルーブリックなどを開発する必要がある（B4-4-23）。
4-4-2	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-4-1	大東文化大学学則 《既出》A1-1
A4-4-2	大東文化大学学位規則
A4-4-3	文学部 履修の手引き 平成 28（2016）年度入学生用 《既出》A1-9
A4-4-4	経済学部履修の手引き 平成 28(2016)年度入学生用 《既出》A1-10
A4-4-5	外国語学部 経（履修の手引き） 《既出》A4-1-9
A4-4-6	法学部 履修の手引き 平成 28（2016）年度入学生用 《既出》A1-11
A4-4-7	国際関係学部 ガイドブック 平成 28（2016）年度入学生用 《既出》A1-12
A4-4-8	経営学部履修の手引き 平成 28(2016)年度入学生用 《既出》A1-13
A4-4-9	環境創造学部 履修の手引き 2016 《既出》A4-1-13
A4-4-10	スポーツ・健康科学部 羅針盤（履修の手引き） 《既出》A1-14
A4-4-11	大東文化大学大学院学則 《既出》A1-2
A4-4-12	2016(平成 28)年度大学院の手引き 《既出》A1-17
A4-4-13	文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程・博士課程後期課程学位論文の審査基準 文学研究科中国学専攻博士課程前期課程・博士課程後期課程学位授与基準 文学研究科英文学専攻修士論文審査基準・口述試験実施要領 文学研究科書道学専攻博士課程前期課程・博士課程後期課程学位審査基準 文学研究科教育学専攻修士課程修士論文審査基準
A4-4-14	大東文化大学大学院経済学研究科学位論文審査基準
A4-4-15	大東文化大学大学院法学研究科学位論文審査基準
A4-4-16	外国語学研究科学位論文審査基準
A4-4-17	大学院アジア地域研究科学位論文審査基準 アジア地域研究科学位（課程博士・論文博士）に関する細則
A4-4-18	経営学研究科経営学専攻博士前期課程・後期課程学位論文審査基準 大東文化大学大学院経営学研究科博士論文申請要件内規
A4-4-19	大学院履修要項スポーツ・健康科学研究科 2016 年度 《既出》A1-16
B4-4-1	学生による授業評価アンケートと大学教育 2015 年度 《既出》B3-12
B4-4-2	FD 報告書 卒業生アンケート 2015 年度 《既出》B4-3-27
B4-4-3	学生生活調査（アンケート） 《既出》B1-7
B4-4-21	授業評価結果に対する教員コメントの抜粋（授業改善の例として）
B4-4-23	2014 年度点検・評価シート（全学的視点）評価基準 4-4
B4-4-24	全学教務委員会規程 《既出》B4-2-14
B4-4-25	大学評議会次第（平成 27 年 7 月 20 日）
B4-4-27	2016 年度ガイダンス日程表（学部・研究科）
B4-4-29	大学データ集 《既出》B1-22

〔追加資料〕

Ⅲ【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	〔全学教務委員会〕 4-4-1 ・学習成果の評価指標を開発し 測定システムを構築する。	・ルーブリックなどが実際に使用されて いる。	→		C		
	〔全学教務委員会〕 4-4-1 ・学生が自身の到達目標への達 成度を確認できるシステムを開発 する。	・カリキュラムや科目の性質に応じたシ ステム（ポートフォリオ、学生カルテ など）ができあがっている。	→		C		
14年度 目標	〔全学教務委員会〕 4-4-1 ・学習成果の評価指標について 他大学の事例、学内の意見を収集 して検討を開始する。	・他大学の事例の収集と提示 ・学内アンケートの実施	→	A			
	〔全学教務委員会〕 4-4-1 ・他大学の事例を参照しつつ、 学生が自身の学習到達度を確認す るための方法、制度の整備を検討 する。	・他大学の事例の収集と提示	→	A			
15年度 目標	4-4-1 評価指標の開発について全学 的な議論を進めていくための組織を 作る。	・そのような組織が大学評議会の承認を 得て設置されている。		S			
16年度 目標	4-4-1 「学生による授業評価アンケ ート」「卒業生アンケート」「学生生 活調査（アンケート）」などの、より 有効な活用方法を検討する。 4-4-1 教育目標、学位授与方針、教 育課程の編成・実施方針を見直して より具体的なものにした上で、各科 目において身につけるべき能力や知 識、およびそのレベルを確定し、そ れぞれに見合った評価指標を検討す る。	・各種アンケートを授業改善、教育環境 改善に結びつける具体的方法の策定 が、全学 FD 委員会および全学教務委 員会で始まっている。 ・全学教務委員会を中心に、各学部、各 分科会（全学共通科目、保健体育、英 語、外国語）等において議論が開始さ れている。			C		